

News Release

2020年3月19日

この資料は BASF 本社(ドイツ)が 2020 年 2 月 28 日に発表した英語のプレスリリースを BASF ジャパンが日本語に翻訳・抄訳したものです。

BASF の新たな重点的アプローチにより農業イノベーションパイプラインが 25%向上

- **販売見込みが最大 75 億ユーロを超える豊富な農業向け製品パイプライン**
- **農業生産性、環境保護、社会的ニーズのバランスを可能にする革新的なソリューション**
- **農業における戦略を支援する研究開発への注力を明確化**

BASF(本社: ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)は、農業ソリューションのイノベーションパイプラインにおける販売見込みの最高額を、75 億ユーロ以上に引き上げたと発表しました。BASF は 2029 年までに、30 以上のプロジェクトの立ち上げを予定しており、これには、新規の種子と形質、化学的および生物学的農薬製品、デジタル製品、提供範囲を拡大する新しい製剤が含まれます。BASF は、農業における戦略に沿って、農業の生産性と環境保護、および社会のニーズのバランスを保てるように、生産者と連携したソリューションに注力しています。BASF は、近年力を入れている農業ソリューションのための研究開発(R&D)投資を基盤とし、2020 年には前年水準の支出を予定しています。2019 年だけで、アグロソリューション部門の研究開発費として 8 億 7900 万ユーロを充当しました。これは売上高の約 11%を占めています。

「農業は私たちの生活の中心であり、すべての人に大きな影響を与えています。だからこそ、私たちは毎日、より差し迫った環境、気候、社会の課題に取り組む必要があります。BASF では、農業の持続可能なイノベーションを推進し、社会に価値を創造す

るのに役立つ、すべての素晴らしい新しいアイデアを受け入れています。私たちの目的は、高収量でストレス耐性の高い作物生産を可能にし、農業の CO₂ 排出量を削減し、生物多様性を高める実用的なソリューションを見つけることです」と、BASF アグロソリューション事業本部プレジデントのヴァンサン・グロは述べています。「私たちには優れたイノベーションパイプラインがあります。生産者と環境の両方に利益をもたらす製品とソリューションを特定し、開発するために継続的に投資しています。」

研究開発プロジェクトの焦点を明確化

持続可能な農業における BASF の業界を牽引する地位は、プロセス全般にわたって十分に統合された、積極的な研究開発ポートフォリオの運営と、サステナビリティ基準に支えられています。BASF のバイオサイエンスリサーチのプレジデント、ピーター・エックスは、「新しい戦略により、特定の農作物のシステムに焦点を当てた、私たちのイノベーションの方向性が明確になりました。私たちは、利用可能なすべての科学技術を駆使して、長期的に、経済的、生態学的、かつ社会的ニーズを満たす、持続可能なソリューションを開発しています」と述べました。

CO₂ 排出量削減のための高収量とストレス耐性作物

今日の農業の課題に対応するため、BASF のイノベーションパイプラインは、戦略的な顧客セグメントと 4 つの作物栽培システムのための新しい技術とソリューションに焦点を当てています。

- ・ 大豆、トウモロコシ、綿
- ・ 小麦、キャノーラ(アブラナ)、ひまわり
- ・ 米
- ・ 果物、野菜

BASF の研究開発イノベーションの強みの一例は、小麦、キャノーラ(アブラナ)、ひまわりを含む作物栽培システムにおける、強力なパイプラインプロジェクトを通じて実証されており、約 120 億ユーロの市場規模に対応しています。この市場において、

BASF は、水や農薬をほとんど必要としない干ばつや暑さに耐性のある作物だけでなく、気候耐性があり、高い収量を得られる農業のための革新的なソリューションを開発しています。生産者が持続的に収量を増やし、田畑を耕す作業を減らすことができ、それによって土地の浸食や温室効果ガスの排出を最小限に抑えることができます。イノベーションの事例は以下の通りです。

- ・ 除草剤：世界中の生産者が、効果的な雑草管理へ継続してアクセスできることを保証するために、BASF は二つの新しい除草剤の有効成分、Luximo[®]と Tirexor[®](ティレクサー)を開発しました。2020 年以降、これらはとりわけ小麦生産者に、制御が困難な草や広葉雑草を管理する新たな可能性をもたらします。さらに、BASF は除草剤に耐性のある雑草を管理し、不耕起農法のような CO₂ 排出量を削減する農法を可能にする、新たな作用機作に取り組んでいます。
- ・ 殺菌剤：BASF は最近、高度な規制基準を満たし、園芸作物および穀物類において、防除困難なさまざまな病害に対して優れた防除効果を発揮する Revysol[®](レビゾール)を発売しました。また、住友化学株式会社と共同開発した新規殺菌剤 Pavecto[®]は、生産者にとってユニークな耐性管理のツールとなります。BASF は、Revysol[®]と Pavecto[®]をベースにした製品を、バリューチェーンにおいてサステナビリティへの貢献度が高い「アクセラレーター」製品に分類しています。BASF のアグロソリューション事業本部は、持続可能なソリューションに向けて積極的にポートフォリオを運営しており、アクセラレーター製品の売上高を 220 億ユーロにするという BASF グループの 2025 年の目標に大きく貢献しています。
- ・ 殺虫剤：BASF は殺虫剤ポートフォリオをさらに拡大し、生産者にさらなるソリューションを提供するために、三井化学アグロ株式会社と共同で、Broflanilide(ブロフラニリド)を開発しました。2020 年以降に発売される新しい有効成分は、生産者がジャガイモ甲虫などの害虫から園芸作物や畑作物を守るのに役立ちます。ブロフラニリドは、最近発売された殺虫剤 Inscalix[®](インスカリス[®])とともに、BASF が今後 10 年間に展開する殺虫剤におけるイノベーションの一部となっています。

現代の農業を支えるデジタル化

xarvio® Digital Farming Solutions(ザルビオデジタルファーマーミングソリューション)ブランドで販売されている BASF のデジタル製品を使用している生産者は、少ない資源と資材投入量で、より高い収量を達成できます。BASF の最新の成果に基づいたデジタルビジネスモデルである、xarvio® HEALTHY FIELDS(ザルビオヘルシーフィールド)を使用することで、生産者は見える化された圃場、および季節ごとの作物保護サービス、外部委託の散布請負業者による作業負荷の軽減、リアルタイムモニタリング、および圃場での成功保証などの利益を享受することができます。デジタル製品である xarvio®は、作物保護製品、肥料管理、自動緩衝地帯、および生物多様性モニタリングのより正確な適用を可能にします。BASF では現在、120 カ国以上、250 万人以上の生産者を支援し、農業による環境への影響を軽減し、世界中の食糧生産を改善しています。

※このプレスリリースの内容および解釈については英語のオリジナルが優先されます。

■BASF のアグロソリューション事業本部について

世界の人口が急速に増加するなか、持続可能な農業と健康的な環境を作り出して維持するBASFの役割はますます大きくなっています。BASFのアグロソリューション事業本部は、生産者や農業従事者、害虫駆除業者などの皆様と共にこの状況に対応しています。そのため、BASFは強力な研究開発パイプラインや、種子、形質、化学・生物農薬、土壌管理、プラントヘルス、害虫防除、デジタル農業などを含む、幅広いポートフォリオに投資を行っています。研究室や現場、事務所、生産施設に専門家チームを配し、生産者や社会、そして地球のために、革新的な考え方と堅実な行動を組み合わせ、実際に役立つ現実的なアイデアを生み出しています。2019年、BASFのアグロソリューション事業本部の売上高は78億ユーロでした。アグロソリューション事業本部の詳細はwww.agriculture.basf.com/jp、または各種ソーシャルメディアをご参照ください。

■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は、ドイツ ルートヴィヒスハーフェンに本社を置く総合化学会社です。持続可能な将来のために化学でいい関係をつくることを企業目的とし、環境保護と社会的責任の追及、経済的な成功の3つを同時に果たしています。また、全世界で117,000人以上の社員を有し、世界中のほぼすべての産業に関わるお客様に貢献できるよう努めています。ポートフォリオは、6つの事業セグメント(ケミカル、マテリアル、インダストリアル・ソリューション、サーフェステクノロジー、ニュートリション&ケア、アグロソリューション)から成ります。2019年のBASFの売上高は590億ユーロでした。BASF 株式会社はフランクフルト証券取引所(BAS)に上場しているほか、米国預託証券(BASFY)として取引されています。BASFの詳細情報は、<http://www.basf.com>をご覧ください。